

谷田の泉で生きる仲間 カワモズク

この水辺には、「カワモズク」という絶滅が心配されている「藻(も)」の仲間が生育しています。カワモズクは、湧き水やそこから流れるきれいな小川の石などの上に生育します。

都市近郊では、開発のためにカワモズクが生育できる場所がとても少なくなっています。県内ではこの場所を含めて数ヶ所しか確認されず、埼玉レッドデータブックで絶滅危惧ⅠA類に指定されています。

生き物にはそれぞれに適した環境があります。その環境は長い時間をかけた自然の営みと人の歴史によって成り立ってきたものです。

ここを訪れた一人ひとりが、その意識を持ち、水の中に入らず、やさしく見守ってほしいと思います。



カワモズク

保全に至るまで

谷田の泉は、自然とふれあう場として、また子どもたちの遊び場として親しまれてきました。しかし、近年、周辺では資材置場などの小規模な開発があり、この希少な自然環境を保全していくことが急務となっていました。

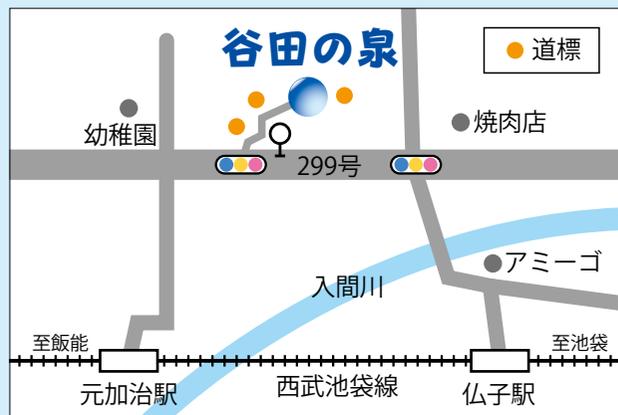
平成20年度、埼玉県の「まちのエコ・オアシス保全推進事業」により、泉の周辺約1haを土地所有者のご協力により公有地化し、次の世代に継承していくことになりました。

多様な自然環境を残すため、湧水地と樹林は現状のまま保全することを基本とし、水と緑に親しめる身近な自然空間とします。

交通のご案内

西武鉄道元加治駅または仏子駅より徒歩約30分。

ふれあい茶ん歩道③「湧水をめぐる」の道標に沿って歩きます。



発行 入間市役所みどりの課

〒358-8511 埼玉県入間市豊岡1-16-1

TEL04-2964-1111

ホームページアドレス

<http://www.city.iruma.saitama.jp/>

埼玉県「まちのエコ・オアシス
保全推進事業」保全地

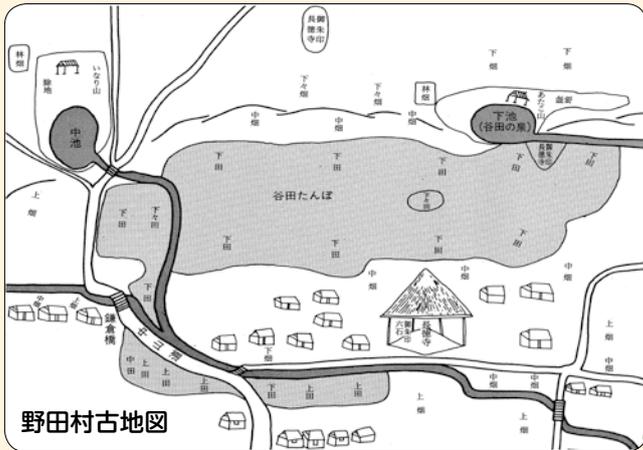
や た いずみ
谷田の泉



谷田の泉は、夏も冬も枯れることのない豊富な湧き水、崖に沿った斜面林、湿地、草地という多様な環境がまとまってあり、様々な生き物が見られる自然豊かなところです。

谷田の泉と人々

今も残る谷田の泉の風景は、湧き水と人々の関係の歴史を伝える遺跡でもあります。



←野田村の絵図から描いた古地図には、広い水田が描かれています。かつて、谷田の泉の水は「下池」と呼ばれた溜め池にして水田に引いていました。

水田稲作に適した場所が少なかった入間市において、湧水と溜池の遺構が残っているこの地は、良好な歴史教材になっています。江戸時代の古池図が示すように、この地に住む人々にとって谷田の田んぼは、コメを生産できる貴重な場所だったのです。



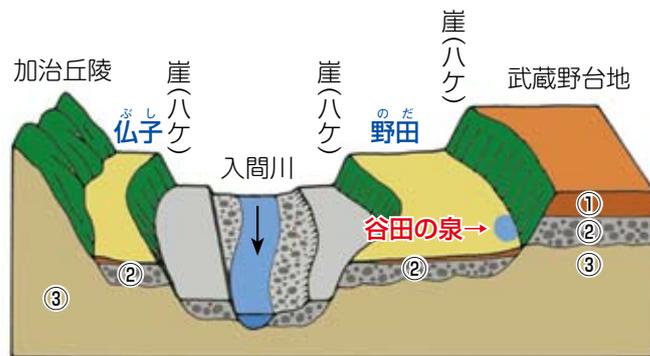
水田のあった頃の様子(1993年撮影)

湧き出る水の秘密

豊富な湧き水はどこから来るものなのでしょうか。

谷田の泉のすぐ後ろは崖になっています。この崖は、大昔に入間川の川岸であったところで、ハケ(崖や斜面)と呼ばれているものです。ハケは2段あり、谷田の泉があるのは上のハケです。

谷田の泉のある崖は下の図のような3つの層に分かれています。①と②の層には隙間が多く、水がよくしみ込みますが、③は粘土などでできた硬くしまった層なのでしみ込んだ水は③の上を流れ、崖のような場所から湧き水として私たちの前に現れます。



入間川の造った地形の模式断面(入間市野田・仏子付近)

- ①火山灰が積もってきた土(関東ローム層)
- ②川原の石ころや砂の層(段丘礫層)
- ③粘土などでできたかたい層(仏子層)



入間川の作った地形を鳥の目線で見てみましょう。山の水を集め、飯能で平野に出た入間川は、大きく流れを変化させながら川岸を削ったため、大きな段々の地形を作ってきました。

←写真の中の線は、昔の川岸で今は崖となっているところです。現在流れている入間川に向かって段々と低くなります。

→右の図は段が変わるごとに色分けしてあります。●色のところが谷田の泉のある崖の上の段です。この段に降った雨は石ころの層の中を地下水としてならだかに流れてきます。谷田の泉のある崖は、ちょうど上流(西側)から来る地下水流れを断ち切る角度となっています。

谷田の泉が特別に豊富な水量を誇っているのは、このような太古の昔から続く自然の営みによるものなのです。

